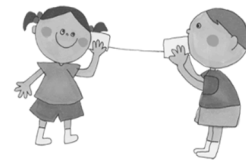


いと 系でんわ



講演会の感想 （12月6日）

自分の考えが変わった講演会だったと思う。小学校の時は、自分に出来ることを少しでもやろうという考えだったけど、中学に入り、「どうでもいいや」と思ってしまった自分がいた。でも、今回の話を聞き、少しでも自分が今できる事を考え、行動に移すことが出来れば、また新しいことに目を向けることが出来るようになるのじゃないかと思った。講演会の話にもあったけど、正直、「部落に引っ越してきて！」と言われても行きたくない自分が勝ってしまうと思う。こういう考えが差別の始まりだと思うから、まずは自分が差別をしないことが大切だと思った。「もちあじ」は分からない、見つけられないので、また探してみたい。

正直、部落問題とかよく分からないし関係がないと思っていたけど、そう言う訳じゃなくて、みんなに関係があって、みんなで考えていかないといけない問題だと思いました。そして、最後に紹介された本の「ハチドリ」のように、自分にできることをやり、自分がやらないといけない事をできる大人になりたいと思いました。

部落差別とかは、よく分からなかったけど、差別を受けて苦しんでいる人が今もいることが分かった。こういう人たちがいるということを理解するだけでなく、自分に何が出来るか考えようと思った。でも、考えるだけでは時間の無駄なので、行動に移そうと思う。この講演で、みんなの意識が変わったとは思わないし、自分も正直、自分のこととして受け取ることが出来なかったけど、世界中のたくさんの差別を知ってなくしたいという意志は固くなった。私ができることと言ったら、今は知って理解することだけかもしれないけど、大人になって世界中の貧困の所や差別を受けている所に行って、助けられるような素敵な大人になりたい。誰か一人でも良いので救って、その人の人生を明るくできたら、私は生きていて良かったと思えるのではないかなと思う。

今日、話を聞いて、部落差別について少し知る事ができました。私は「部落出身」と言い、仲間外れにするという行動について、私はおかしいと思いました。なぜなら、「部落」だからと聞いて、差別をするのは自分の思っていることが間違っていないと勝手に決めているのだと思ったからです。「部落」という理由で、差別をすることで、一人ひとりが住みやすい社会をつくるためには、「差別」や「偏見」をなくし、「おかしい！」と声を上げることの出来る

雰囲気^{ふんいき}をつくることだと思いました。しかし、現実^{げんじつ}では「声を上げる」^{むずか}ことが難しいです。だから、今できる周りにあるイジメをなくす、止めるという行動が大切だと思いました。今からでも行動できることはしていきたいです。

講演会を聞いて、昨日学習した部落差別の体験談^{たいけんだん}を話してもらい、深く考えることができたと思う。たくさんの体験談を聞き、体験したことのない自分だけど、話を聞いているだけで、嫌な気持ちになった^{いや}。なぜ、部落出身だからと言って差別を受けなければならないのか、講演会で言っていたように、「なんで自分だけこんな目に・・・」と思わないといけない人が出て来るのか、すごく不思議^{ふしぎ}に思ったと同時に怒りもあって、周りには部落差別だけでなく、人種^{じんしゆ}、男女などのたくさんの差別、イジメがある、自分は差別やイジメを受けたことがないから、その人たちの辛さは分かってあげられない。でも、「ハチドリのひとしずく」のように、自分がその時できることを少しずつでもいいから、努力し続け、周りをもっと巻き込んで、差別などを無くせるようにしたい。どんなことに対しても、少しずつできることをして、努力をし続けたいと強く思いました。

「部落差別」というのは、昔の話だと思っていました。だけど、最近^{さいきん}まで続いているということを知って何百年も周りから勘違い^{かんちが}されて、生きていくというのはとても辛いことで、あってはならないもの、それが続いてしまうのは、誰かが「〇〇って～らしい」など噂やデマを流していたということだと思います。知らないうちに、見たこともないのに、「〇〇は～」という偏見をつけてしまい、それが広がっていく。広げることを防ぐのは大事だと思うが、「知ろうと思う・興味をもつ」^{きょうみ}ことで、もし、うわさが話されていたとすれば、「ウソだ」と言うことができ、いろんなものを守ることができる。意識を変える⇒差別・決め付け・困っている人が少なくなる⇒安心して暮らせる⇒ありのままを出せるようになる。今回の講演会でそう思いました。

今日の講話^{こうわ}で、部落差別は絶対にしてはいけないことだと改めて思いました。「部落だから一緒に遊んではいけない」というのは大間違い^{おおまちが}だと感じました。そんなのただの偏見だし、差別しているし、そういったことを言っている人がいたら、自分だったら例え母でも友だちでも怒っていると思います。最後の本の「私は、私に出来ることをしているだけです」という文が心に残りました。自分に出来ることを、どんなに小さいことでも続けていれば、いずれかは自分の力で差別をなくせるのじゃないかと思います。私も気づいていないだけで、ちょっとした一言で人を差別してしまっているかもしれません。人権学習を通じて、差別的な発言を減らしていけたらいいなと思います。改めて講話を聞き、差別についてしれて良かったなと感じます。今後に生かしていけたら良いと思います。

どんな大人になりたいですか？